

地 理 歴 史

1 教育課程研究協議会の経過（平成11年度～14年度）

平成11年度から実施された教育課程研究協議会において、地理歴史科は世界史、日本史、地理の3分科会に分けて、説明及び研究協議を行った。

| | 手 引 の 概 要 | 説 明 及 び 協 議 の 概 要 |
|--------|---|---|
| 平成11年度 | 1 教科の目標及び科目編成 2 改訂の基本方針 3 各科目の改訂の内容 | ・改訂の基本方針について ・各科目の目標、内容の構成、内容の取扱いについて |
| 12年度 | 1 地理歴史科と中学校社会科との関連 2 各科目の内容及び取扱いの留意点 | ・主題学習の取扱いについて ・歴史的思考力、地理的技能について |
| 13年度 | 1 地理歴史科の教育課程の編成 2 各科目の指導計画と内容の取扱い 3 各科目の指導計画の作成 | ・教育課程の編成の基本的な考え方及び配慮すべき事項について ・特色ある教育課程の編成について |
| 14年度 | 1 地理歴史科の学習指導の改善 2 評価の工夫 3 各科目の学習指導案の作成 | ・学習指導の改善の視点及び効果的な学習指導について ・評価の基本的な考え方及び評価の工夫について |

2 学習指導の改善・充実

(1) 個に応じた指導の工夫

基礎・基本の定着を図り、自ら学び自ら考える力などの確かな学力を向上させるために、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心等を十分把握して、きめ細かな指導を行ったり、体験的な学習や課題解決的な学習を充実させたりするなど、指導方法や指導体制の工夫改善を図ることが大切である。

改訂された学習指導要領では、地理歴史の各科目において、内容を厳選し重点化を図るとともに、主題学習や科目内の選択を重視し、基礎・基本の定着と学び方を学ぶ学習や課題解決的な学習をより一層充実させることができるよう改善が図られている。

学習指導を進めるに当たっては、個別指導やグループ指導の導入、理解や習熟の程度に応じた指導を取り入れるなど、個に応じたきめ細かな指導を展開し、基礎・基本を確実に身に付けさせることが大切である。また、生徒の興味・関心を生かせるよう主題学習や選択学習を工夫するとともに、調査・研究、発表・討論などの体験的な学習活動を積極的に取り入れて、生徒が自らの興味・関心等を生かした課題解決的な学習に取り組めるよう工夫することが大切である。

その際、生徒が自ら地図や年表を読んだり作成するなどの学習や、各種の統計、年鑑、白書、新聞等の資料に生徒が親しみ活用する学習、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する学習など、生徒一人一人が主体的に取り組む学習活動を取り入れるよう配慮することが必要である。

(2) 指導と評価の工夫・改善

地理歴史科の学習を通じて確かな学力を向上させるためには、指導と評価の一体化をすすめ、学習指導の改善を図ることが求められる。そのためには、次のように、目標に準拠した評価を通して、地理歴史科及び各科目の目標・内容の実現状況や、生徒一人一人の学習の進歩の状況を的確に把握し、その結果を学習指導の改善に生かす必要がある。

ア 目標に準拠した評価と評価規準

目標に準拠した評価を行うためには、各学校において、地理歴史科及び各科目の目標に基づいて、各科目の学習指導のねらいを定めるとともに、内容のまとめ（単元など）ごとに、「関心・意欲・態度」、「資料活用の技能・表現」、「思考・判断」、「知識・理解」の4観点について、達成度を評価する評価規準を作成する必要がある。

イ 評価規準作成上の留意点

(ア) 実態を考慮した評価規準の作成

評価規準は、例えば、日本史A大項目(2)「近代日本の形成と19世紀の世界」における「知識・理解」では、「開国以後、……と関連付けて理解し、その知識を身に付けている」などのように、科目の目標・内容の具体的な実現状況を想定して作成することが重要である。その際、学習指導要領及び学習指導要領解説、国立教育政策研究所教育課程研究センターの評価規準等を参考にして評価の客観性を高めるとともに、各学校の生徒の状況や使用教科書等の実態を考慮することが大切である。

(イ) 評価から評定への総括方法の明確化と評価規準・評価方法の改善

評価を総括して評定とする手順を明確にし、学校全体や教科担当者間で共通理解を図ることが必要である。また、評価規準や評価方法を分かりやすくシラバスに掲載するなどして、教育課程の実施状況を生徒や保護者に公開することも求められる。さらに、学校全体の生徒の学習状況についての自己点検・自己評価を通じて、評価規準や評価方法の改善を図り、評価の客観性や信頼性を高めることが重要である。

ウ 指導と評価の計画の作成

評価規準の作成と同時に、どの場面でどのように評価するかといった評価の方法や手段についても、年間指導計画に明確に位置付ける必要がある。例えば、単元ごと的小テストなどで「知識・理解」、「思考・判断」を評価し、レポートや発表などで、「関心・意欲・態度」や「資料活用の技能・表現」を評価するなど、指導計画の中に評価計画を位置付けた年間指導計画を作成することが大切である。

エ 指導と評価の一体化

これまでの地理歴史科の評価は、授業や教科書で扱われる知識をどれだけ記憶しているかといった知識量の多さにとられる評価が行われる傾向が強かった。その結果、生徒がいわゆる“暗記中心”の学習に偏り、「歴史的思考力」や「地理的な見方・考え方」など地理歴史科の学習で培うべき重要な資質の育成が難しい状況も見られた。

地理歴史科の目標を達成させるためには、教科・科目の目標の実現状況を評価するとともに、生徒一人一人の学習状況を的確に把握することが必要であり、さらに、その結果を単元構成等の指導計画や指導方法、教育課程編成の改善に生かすよう、評価の計画を指導過程と密接に結び付け、指導と評価の一体化を進めることが大切である。

3 シラバスの作成

科目「世界史A」のシラバス (例)

| 教科名 | 地理歴史 | | 科目名 | 世界史A |
|--|--|---|---|--|
| 科目の目標 | 近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 | | | |
| 履修学年 | 1 学年 | 学科・コース | 普通科 | |
| 単位数 | 2 単位 | 授業形態 | 一斉授業・グループ別授業 | |
| 教科書 | 〇〇〇 | 副教材等 | 〇〇〇 | |
| 1 学習の目標 | | | | |
| 本校では、世界史Aを全員が学び、次のような力をつけることを目標としています。 (1) 近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解すること。 (2) 人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培うこと。 (3) 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うこと。 | | | | |
| 2 学習内容と進め方 | | | | |
| (1) 教科書の内容を中心に、近現代を中心とする世界の歴史の基本事項を学びます (2) 授業中にできるだけ多くの資料を使い、さらに自分で資料を活用する課題にも取り組みます。 (3) 学年末には、現代の世界について、グループ毎にテーマを設定して取り組む主題学習を行います。 | | | | |
| 3 学習の留意点 | | | | |
| (1) 世界の歴史や現代の世界について、「なぜそうなったのだろう」という疑問を大切に学びましょう。 (2) 様々な立場の考え方を理解し、歴史的に過去や現代を考え、人類の課題を多面的に考える力をつけましょう。 (3) 資料を調べて客観的な事実を探究する力や、年表や図表などに分かりやすくまとめる表現力を身に付けましょう。 (4) 基本的な「知識・理解」については、自分の言葉で、その背景などを説明できるようにし、確実に身に付けましょう。 | | | | |
| 4 評価の方法 | | | | |
| (1) 定期考査において、「知識・理解」、「思考・判断」を中心として、学習の定着度を評価します。 (2) 「資料活用の技能・表現」については、各単元毎に1回、調べ学習を行い、提出したレポートを中心に評価します。 (3) 現代世界や人類の課題について多角的に考えることができる「思考・判断」をミニ論文で評価します。 (4) 学年末の主題学習では、1年間の学習の成果がどう生かされるか、4つの観点すべてを総合的に評価します。 | | | | |
| 5 授業計画 | | | | |
| 月 | 単元 | 具体的な学習内容 | 評価の観点 | 評価の方法 |
| 4 | 「世界史A」学習について | オリエンテーション | | |
| | (1) 諸地域世界と交流圏 | ◎ユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特徴を学習します。 ・諸地域世界の風土、民族、宗教 ・諸地域の相互交流と、世界の一体化につながる交流圏の成立 | 【関心・意欲・態度】 ・諸地域世界の風土、民族、宗教などに関心を持ったか。 ・諸地域世界の相互交流や交流圏の成立について意欲的に学ぼうとしているか。 【思考・判断】 ・諸地域世界を風土、民族、宗教などの視点から考え、比較できるか。 ・諸地域世界の相互交流や交流圏の成立を通じて、世界の一体化について考えることができるか。 | 【資料活用の技能・表現】 ・<レポート> 諸地域世界の特徴や交流に関する情報を得るための資料を探して、どう活用できるかをまとめます。 【思考・判断】 ・<ミニ論文> 諸地域世界が、なぜ交流を持つようになったのかを自分なりに考えます。 ・定期考査 |
| | ア 東アジア世界 | ◎東アジア世界の特徴を学習します。 ・東アジアの風土と諸民族 ・漢字文化 ・儒教 ・中国を中心とする国際体制 | | |
| | イ 南アジア世界 | ◎南アジア世界の特徴を学習します。 ・南アジアの風土と諸民族 ・仏教の成立 ・ヒンドゥー教とカースト制度 ・イスラームの影響 | | |
| 5 | ウ イスラーム世界 | ◎イスラーム世界の特徴を学習します。 ・西アジアの風土と諸民族 ・イラン文明の伝統 ・イスラームの成立と拡大 | 【資料活用の技能・表現】 ・諸地域世界の特徴や交流に関する情報を調べるためにどのような資料があるか探ることができるか。 【知識・理解】 ・ユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特徴を把握しているか。 ・諸地域世界の風土、民族、宗教などに関する基本的知識を身に付けているか。 | 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元毎の5分間テスト(6回) |
| | エ ヨーロッパ世界 | ◎ヨーロッパ世界の特徴を学習します。 ・ヨーロッパの風土と諸民族 ・ギリシア・ローマ文明の伝統 ・キリスト教 | | 【関心・意欲・態度】 ・<レポート> 諸地域世界と交流圏について学んだ後に、疑問に思ったことを自分なりにまとめたレポートを提出します。 |
| | オ ユーラシアの交流圏 | ◎8世紀以降のユーラシア規模の交流圏の成立と都市や港のネットワークを学習します。 | | |
| 6 | (ウ) 地中海海域とユーラシア | ◎ユーラシア、アフリカとつながる地中海交流圏の成長を学習します。 ・イタリア商人による東方貿易 ・イスラーム文明のヨーロッパへの流入 | ・諸地域世界の相互交流の様子を把握しているか。 ・交流圏に関する基本的知識を身に付けているか。 | |
| | (イ) 東アジア海域とユーラシア | ◎東アジア海域の交流圏としての成長を学習します。 ・元の大都を拠点とする東西交流 ・黄海や東シナ海における交易 ・倭寇 ・勘合貿易 ・琉球王国の交易活動 | | |

| 月 | 単元 | 具体的な学習内容 | 評価の観点 | 評価の方法 |
|----|--------------------------|---|---|--|
| 7 | (2) 一体化する世界 | ◎世界の一体化の過程を学習します。 ・16世紀以降の世界商業の進展 ・産業革命後の資本主義の確立 ・ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応 | 【関心・意欲・態度】 ・世界の一体化の過程に関心を持ち、意欲的に考えようとしているか。 ・世界の一体化の過程におけるヨーロッパの動向とアジア諸国の対応について関心を持ち、意欲的に考えようとしているか。 【思考・判断】 | 【資料活用の技能・表現】 ・<レポート> 世界の一体化に関する情報を選択し、自分なりにまとめてみる。 【思考・判断】 ・<ミニ論文> なぜ世界の一体化が進んだのか、自分なりに考えをまとめてみる。 |
| | ア 大航海時代の世界 | ◎16世紀の世界の一体化への動きを学習します。 ・大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流 | ・なぜ、世界の一体化が進んだのかを考えることができるか。 ・世界の一体化の過程におけるヨーロッパの動向とアジア諸国の対応を比較して考えることができるか。 【資料活用の技能・表現】 ・図書や図版などから世界の一体化に関する情報を選択し、自分なりにまとめることができるか。 【知識・理解】 | ・定期考査 ・定期考査 ・小単元毎の5分間テスト(4回) 【関心・意欲・態度】 ・<レポート> 世界の一体化の過程を自分なりに考えようとしている。 ・<レポート> 16世紀から19世紀のヨーロッパとアジアの動向について、もっと知りたいことは何か。 |
| 8 | イ アジア諸帝国とヨーロッパの主権体制 | ◎17～18世紀の世界の特質を学習します。 ・アジアの諸帝国の政治と社会 ・ヨーロッパの主権国家体制の成立 ・大西洋貿易の展開 | ・世界の一体化の過程を理解し、知識を身に付けているか。 ・世界の一体化の過程におけるヨーロッパの動向とアジア諸国の対応を理解し、知識を身に付けているか。 | ・<レポート> 16世紀から19世紀のヨーロッパとアジアの動向について、もっと知りたいことは何か。 |
| | ウ ヨーロッパ・アメリカの諸革命 | ◎ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を学習します。 ・産業革命 ・フランス革命 ・アメリカ諸国の独立 ・自由主義と国民主義の進展 ・拡大する貿易活動 | ・世界の一体化の過程を理解し、知識を身に付けているか。 ・世界の一体化の過程におけるヨーロッパの動向とアジア諸国の対応を理解し、知識を身に付けているか。 | |
| 9 | エ アジア諸国の変貌と日本 | ◎19世紀の世界の一体化とその特質を学習します。 ・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容 ・その中での日本の対応 | | |
| 10 | | | | |
| 11 | (3) 現代の世界と日本 | ◎地球規模で一体化した現代世界の特質と展開を学習します。 ◎人類の課題を考察します。 | 【関心・意欲・態度】 ・現代世界に対する関心を持ち、意欲的に追究し、人類の課題について考えようとしているか。 ・人類の課題について考えることを通じて、国際社会に生きる日本人としての役割を考えようとしているか。 【思考・判断】 | 【資料活用の技能・表現】 ・<主題学習> 現代世界の特質と展開に関する情報を収集、選択し、活用することができるか。 ・主題学習で考えた過程や結果をレポートにまとめ、発表したり、意見を言うことができるか。 |
| | ア 急変する人類社会 | ◎20世紀という時代の特徴を人類史的視野から学習します。 ・輸送革命 ・マスメディアの発達 ・企業や国家の巨大化 ・社会の大衆化 ・政治や文化の変容 ・公教育の普及と国民統合 | ・地球規模で一体化した現代世界の特質と展開について考え、判断することができるか。 ・人類の課題について考え、判断することができるか。 【資料活用の技能・表現】 ・図書やインターネットなどから現代世界の特質と展開に関する情報を収集、選択し、活用することができるか。 ・主題学習で考えた過程や結果をレポートにまとめ、発表したり、意見を言うことができるか。 | 【思考・判断】 ・<ミニ論文> ①地球規模で一体化した現代世界は今後どうなるか。 ②21世紀の人類の課題は何か。 ・<主題学習> ・なぜ世界で地域紛争が起きているのか。 |
| 12 | イ 二つの世界戦争と平和 | ◎平和の意義について考えます。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因、総力戦としての性格、影響 | | |
| | ウ 米ソ冷戦とアジア・アフリカ諸国 | ◎核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題について考えます。 ・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立 ・アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立 | | |
| 1 | | | | |
| 2 | エ 地球社会への歩みと日本 | ◎日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認め合いながら共存することについて考えます。 ・1970年代以降の市場経済の世界化 ・地球規模での問題 | | 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元毎の5分間テスト(4回) |
| | オ 地域紛争と国際社会<主題学習>グループ別学習 | ◎国際社会の変化や国民国家の課題について考えます。 ・冷戦終結後の世界の地域紛争の原因や歴史的背景を調べます。 | 【知識・理解】 ・現代世界の特質と展開を理解し、その知識を身に付けているか。 ・人類の課題に関する基本的な知識を身に付けているか。 | 【関心・意欲・態度】 ・<主題学習> ・今後、どのような科学技術の発展が望まれるか。 |
| 3 | カ 科学技術と現代文明<主題学習>グループ別学習 | ◎人類の生存と環境、世界の平和と安全について考えます。 ◎国際的な交流と協調の必要性について考えます。 ・原子力の利用、情報科学、宇宙科学の出現など現代の科学技術の人類への寄与と課題を調べます。 | | |

科目「日本史A」のシラバス (例)

| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 日本史A | |
|---|--|--|---|--|
| 科目の目標 | 近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などに関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 | | | |
| 履修学年 | 2学年 | 学科・コース | 普通科 | |
| 単位数 | 2単位 | 授業形態 | 一斉授業 | |
| 教科書 | 〇〇〇 | 副教材等 | 〇〇〇 | |
| 1 学習の目標 | | | | |
| 本校では、日本史を学び、次のような力を身に付けることを目標としています。 | | | | |
| (1) 中学校で学んだ歴史的分野や今まで学んだ世界史の内容を踏まえて、近現代の我が国の歴史の展開を、世界の中の日本という視点から理解できること。 | | | | |
| (2) 我が国の歴史の展開から課題を見だし、多面的・多角的に考えることができること。 | | | | |
| (3) 国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養うこと。 | | | | |
| 2 学習内容と進め方 | | | | |
| (1) 近現代の日本の歴史について、講義を中心に、個人による調べ学習やグループ学習など様々な学習活動を取り入れるとともに、みなさんの発表や討論、調査研究・見学等の報告書を生かした授業を行います。 | | | | |
| (2) みなさんの興味・関心や疑問・課題意識などに基づいてテーマを設定し、それを「追究する学習」を行います。 | | | | |
| 3 学習の留意点 | | | | |
| (1) 歴史について考察するためには、「なぜこうなってきたのか」、「いつから始まったのか」、「どのように変化して今日に至ったのか」など、疑問や課題意識を大切に学習をしましょう。 | | | | |
| (2) ノートやワークシートは、メモや自分の考えなどを書き込んだりするなど、自分なりに工夫をしましょう。 | | | | |
| 4 評価の方法 | | | | |
| (1) 定期考査の成績、課題を設定して追究する学習の成果等をまとめたレポート、報告書などの提出物、討論での発表の内容や仕方、学習活動への参加の態度などで評価します。 | | | | |
| (2) 地歴科の観点別学習状況の評価の4観点「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」、「知識・理解」を基本として、科目の目標や単元の到達目標に照らし合わせて評価を行います。 | | | | |
| 5 授業計画 | | | | |
| 月 | 単元 | 具体的な学習内容 | 評価の観点 | 評価の方法 |
| 4 | 「日本史A」の授業について | オリエンテーション | | |
| | (1) 歴史と生活 主題1 (交通・通信の変化) 「車両・船舶・鉄道」 | ◎交通・通信の変化と人々の生活との関連を学習します。 ・鉄道の発達と河川交通 ・交通路の変化と商品流通 ・郵便、電信、電話 ・新聞、ラジオ、テレビ ◎「車両・船舶・鉄道」について学習します。 ・車両、船舶、鉄道についてレポートを作成します。 | 【関心・意欲・態度】 ・身近な地域の歴史や生活文化に関心をもち、交通・通信の変化を意欲的に追究しようとしているか。 【思考・判断】 ・交通・通信の変化と人々の日常生活への影響を関連付けて考えることができるか。 【資料活用の技能・表現】 ・交通・通信の変化に関する諸資料を収集し、まとめることができるか。 【知識・理解】 ・交通・通信について基本的な知識を身に付けているか。 ・生活文化と交通・通信との関わりを理解しているか。 | 【思考・判断】 ・<ワークシート> 交通・通信と人々の日常生活との関わりについて考察するワークシートを提出します。 【資料活用の技能・表現】 ・<単元レポート> 車両、船舶、鉄道と人々の生活との関連を知るための資料を探して、調べたことをまとめたレポートを提出します。 【関心・意欲・態度】 ・交通・通信の変化について学んだことや感想をまとめ、発表します。 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元テスト |
| 5 | (2) 近代日本の形成と19世紀の世界 ア 国際環境の変化と幕藩体制の動揺 | ◎幕藩体制動揺から開国までの社会の展開を学習します。 ・産業、学問・思想、教育における近代の萌芽 ・欧米諸国のアジア進出 ・幕藩体制動揺期の内外の情勢 | 【関心・意欲・態度】 ・近代日本が急速に形成された過程に関心をもち、現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究しようとしているか。 【思考・判断】 ・近代日本が急速に形成された過程と国際社会の変化を多面的に考えることができるか。 ・近代文化が伝統的文化の上に欧米文化を取り入れ成立したことに気付くか。 【資料活用の技能・表現】 ・国際関係の推移と近代産業の成立について資料を探ることができるか。 ・諸資料を収集して、急速に近代化する日本の課題をまとめることができるか。 【知識・理解】 ・近代国家の形成について基本的な知識を身に付けているか。 | 【思考・判断】 ・<ワークシート> 近代産業の成立と日清戦争・日露戦争の関連を考察するワークシートを提出します。 ・<ワークシート> 欧米文化導入により文明開化が推進され、明治の文化が形成されたことを考察するワークシートを提出します。 【関心・意欲・態度】 ・<発表> 明治維新と近代日本の形成を学習して疑問に思ったことを発表します。 【資料活用の技能・表現】 ・<単元レポート> 国際関係の推移と近代産業の成立について知るための資料を探して、調べたり、考えたりしたことをまとめたレポートを提出します。 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元テスト |
| | 6 | イ 明治維新と近代国家の形成 | ◎明治維新から自由民権運動の展開し、立憲体制が確立するまでを学習します。 ・富国強兵・殖産興業政策 ・自由民権運動と政治的関心の高揚 ・大日本帝国憲法の特徴 ・初期議会の動向 | 【思考・判断】 ・憲法制定前後の政治状況について基本的な知識を身に付けているか。 ・近代産業の成立と日清・日露戦争のかかわりを理解しているか。 |
| ウ 国際関係の推移と近代産業の成立 | | ◎日清・日露戦争などの対外政策を学習します。 ・明治初期の外交と条約改正 ・日清戦争と日露戦争 ・産業革命と軍需産業 | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |

| 月 | 単元 | 具体的な学習内容 | 評価の観点 | 評価の方法 |
|----|---|---|---|--|
| 9 | (3) 近代日本の歩みと国際関係 ア 政党政治の展開と大衆文化の形成 | ◎政党政治の成立から崩壊までの経緯を学習します。 ・第1次護憲運動 ・第2次護憲運動 ・護憲三派内閣の成立 ・教育の普及と大衆文化 | 【関心・意欲・態度】 ・多様な学習方法を通して意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとしているか。 【思考・判断】 ・産業革命と社会問題を関連づけて考えることができるか。 ・昭和恐慌、国際関係の変化、軍部の台頭を関連づけて考えることができるか。 【資料活用の技能・表現】 ・国内の経済、社会の動向について資料を収集し、まとめることができるか。 【知識・理解】 ・2つの世界大戦とその間の内外情勢の変化についての基本的な事柄を諸国家間の対立や協調関係と関連づけて理解し、基本的な知識を身に付けているか。 | 【思考・判断】 ・〈ワークシート〉 産業革命と社会問題を考察するワークシートを提出します。 【資料活用の技能・表現】 ・〈単元レポート〉 世界恐慌による資本主義諸国の経済危機とブロック経済化について知るための資料を探して、調べたり、考えたりしたことをまとめたレポートを提出します。 【関心・意欲・態度】 ・〈発表〉 2つの世界大戦とその間の内外の情勢の変化について疑問に思ったことを発表します。 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元テスト |
| 10 | イ 近代産業の発展と国民生活 | ◎産業革命と国民生活の変化を学習します。 ・産業革命と資本主義 ・農村の変化と社会問題 ・社会運動とデモクラシー思想 | 【関心・意欲・態度】 ・北海道の開拓、札幌の都市化について関心をもち、地域社会の変化を追究しようとしているか。 【思考・判断】 ・我が国の政治的、経済的な条件や国際社会の動向などと関連させて北海道と札幌の発展を考えることができるか。 【資料活用の技能・表現】 ・北海道の開拓、札幌市の都市化について資料を収集し、自分なりにまとめ、発表することができるか。 【知識・理解】 ・現在の北海道、札幌市がどのように形成されてきたかについて理解し、基本的な知識を身に付けているか。 | 【思考・判断】 ・〈ワークシート〉 近代の内外情勢と北海道と札幌に関するワークシートを提出します。 【関心・意欲・態度】 ・〈発表〉 北海道の開拓、札幌市の都市化を学習して疑問に思ったことを発表します。 【資料活用の技能・表現】 ・〈単元レポート〉 北海道の開拓、札幌市の都市化について知るための資料を探して、調べたり考えたりしたことをまとめたレポートを提出します。 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元テスト |
| 11 | ウ 両大戦をめぐる国際情勢と日本 | ◎第1次世界大戦から第2次世界大戦までの我が国の内政・外交を学習します。 ・第1次世界大戦 ・経済不安と関東大震災 ・世界恐慌とブロック経済 ・第2次世界大戦 | 【関心・意欲・態度】 ・北海道の開拓、札幌の都市化について関心をもち、地域社会の変化を追究しようとしているか。 【思考・判断】 ・我が国の政治的、経済的な条件や国際社会の動向などと関連させて北海道と札幌の発展を考えることができるか。 【資料活用の技能・表現】 ・北海道の開拓、札幌市の都市化について資料を収集し、自分なりにまとめ、発表することができるか。 【知識・理解】 ・現在の北海道、札幌市がどのように形成されてきたかについて理解し、基本的な知識を身に付けているか。 | 【思考・判断】 ・〈ワークシート〉 近代の内外情勢と北海道と札幌に関するワークシートを提出します。 【関心・意欲・態度】 ・〈発表〉 北海道の開拓、札幌市の都市化を学習して疑問に思ったことを発表します。 【資料活用の技能・表現】 ・〈単元レポート〉 北海道の開拓、札幌市の都市化について知るための資料を探して、調べたり考えたりしたことをまとめたレポートを提出します。 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元テスト |
| 12 | (4) 歴史と生活 主題2 (地域社会の変化) 【北海道の開拓と札幌の都市化】 | ◎地域社会がどのように変化してきたかを、我が国の政治的、経済的条件や国際社会の動向と関連付けて学習します。 ・北海道の開拓 ・札幌市の都市化 | 【関心・意欲・態度】 ・第二次世界大戦後の民主化と復興に関心をもち、現代世界の動向と日本の課題及び役割に対する関心を高め、課題を追究しようとしているか。 【思考・判断】 ・戦争を防止し、民主的で平和的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識しているか。 【資料活用の技能・表現】 ・高度成長における都市化、過疎化、消費の拡大、核家族化に関する資料を収集し、自分なりにまとめ、発表することができるか。 【知識・理解】 ・戦後の経済復興、技術革新と高度成長の内容を理解し、日本経済の発展について基本的な知識を身に付けているか。 | 【思考・判断】 ・〈ワークシート〉 近代の内外情勢と北海道と札幌に関するワークシートを提出します。 【関心・意欲・態度】 ・〈発表〉 北海道の開拓、札幌市の都市化を学習して疑問に思ったことを発表します。 【資料活用の技能・表現】 ・〈単元レポート〉 北海道の開拓、札幌市の都市化について知るための資料を探して、調べたり考えたりしたことをまとめたレポートを提出します。 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元テスト |
| 1 | (5) 第二次世界大戦後の日本と世界 ア 戦後政治の動向と国際社会 | ◎第2次世界大戦後の我が国の発展を国際関係の推移に着目しながら学習します。 ・新憲法の成立 ・対日占領政策と民主化を進める諸改革 ・平和条約調印と国際社会への復帰 | 【関心・意欲・態度】 ・第二次世界大戦後の民主化と復興に関心をもち、現代世界の動向と日本の課題及び役割に対する関心を高め、課題を追究しようとしているか。 【思考・判断】 ・戦争を防止し、民主的で平和的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識しているか。 【資料活用の技能・表現】 ・高度成長における都市化、過疎化、消費の拡大、核家族化に関する資料を収集し、自分なりにまとめ、発表することができるか。 【知識・理解】 ・戦後の経済復興、技術革新と高度成長の内容を理解し、日本経済の発展について基本的な知識を身に付けているか。 | 【資料活用の技能・表現】 ・〈単元レポート〉 高度経済成長と国民の生活意識、価値観の変化について知るための資料を探して、調べたり、考えたりしたことをまとめたレポートを提出します。 【思考・判断】 ・〈ワークシート〉 冷戦終結後の世界情勢を考察するワークシートを提出します。 【関心・意欲・態度】 ・〈発表〉 現在の国際政治、国際経済に関する疑問点をまとめて発表します。 |
| 2 | イ 経済の発展と国民生活 | ◎高度経済成長と国民の生活意識、価値観の変化について学習します。 ・技術革新と高度成長 ・核家族化、都市化、過疎化 ・先進国としての国際的地位の確立 | 【関心・意欲・態度】 ・第二次世界大戦後の民主化と復興に関心をもち、現代世界の動向と日本の課題及び役割に対する関心を高め、課題を追究しようとしているか。 【思考・判断】 ・戦争を防止し、民主的で平和的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識しているか。 【資料活用の技能・表現】 ・高度成長における都市化、過疎化、消費の拡大、核家族化に関する資料を収集し、自分なりにまとめ、発表することができるか。 【知識・理解】 ・戦後の経済復興、技術革新と高度成長の内容を理解し、日本経済の発展について基本的な知識を身に付けているか。 | 【思考・判断】 ・〈ワークシート〉 冷戦終結後の世界情勢を考察するワークシートを提出します。 【関心・意欲・態度】 ・〈発表〉 現在の国際政治、国際経済に関する疑問点をまとめて発表します。 |
| 3 | ウ 現代の日本と世界 | ◎1970年以降の国際政治の動向と現代日本の課題について学習します。 ・石油危機と世界経済 ・冷戦体制の終結 ・資源、エネルギー問題 ・政府や民間の国際貢献 | 【関心・意欲・態度】 ・第二次世界大戦後の民主化と復興に関心をもち、現代世界の動向と日本の課題及び役割に対する関心を高め、課題を追究しようとしているか。 【思考・判断】 ・戦争を防止し、民主的で平和的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識しているか。 【資料活用の技能・表現】 ・高度成長における都市化、過疎化、消費の拡大、核家族化に関する資料を収集し、自分なりにまとめ、発表することができるか。 【知識・理解】 ・戦後の経済復興、技術革新と高度成長の内容を理解し、日本経済の発展について基本的な知識を身に付けているか。 | ・〈発表〉 国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方を発表します。 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元テスト |

科目「地理B」のシラバス (例)

| 教科名 | 地理歴史科 | | 科目名 | 地理B |
|--|--|--|---|---|
| 科目の目標 | 現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う | | | |
| 履修学年 | ○学年 | 学科・コース | ○○科 | |
| 単位数 | 4単位 | 授業形態 | 一斉授業・グループ別授業 | |
| 教科書 | ○○○○ | 副教材等 | ○○○○ | |
| 1 学習の目標 | | | | |
| <p>地理の学習を通して、次のような力や知識を身につけましょう。</p> <p>(1) 現代世界で起きている事象を、自然環境や産業、都市などの項目ごとに追求したり、地域の規模に応じて多面的に追求したりして、それらを地理的な事象としてとらえる視点や方法を身に付けます。</p> <p>(2) 日本や世界でみられる諸事象を、位置や空間的な広がりとかかわりで地理的事象として見いだしたり、地域という枠組みの中で考察して、国際社会に主体的に対応して生きることが出来る日本人としての自覚と資質を養います。</p> | | | | |
| 2 学習内容と進め方 | | | | |
| <p>高校の地理学習は、おおまかに次のような内容で学習を進めます。</p> <p>(1) 教科書を中心に、地図帳を活用しながら、世界の地理の学習に重点を置いて進めます。</p> <p>(2) 各単元で、地図や写真、統計資料などをコンピュータを利用して活用する学習を行います。</p> <p>(3) 地理の学習では、さまざまな知識を「覚える」ことも大切ですが、作業を通して「なぜこうなったのか、どのように変化して今日に至っているのか」「そのことを知るためには、どうしたらいいのか」など学習の視点や方法を「考える」ことを重視します。</p> | | | | |
| 3 学習の留意点 | | | | |
| <p>次の点に注意して学習すると学習内容に対しての理解が深まります。</p> <p>(1) 初めて聞いた国名や地名は、地図帳で位置などを確認するようにしましょう。</p> <p>(2) 地理の学習は、文字だけではなく数字や形、色でとらえることが必要です。地図や図表で表現することを大切にしましょう。</p> <p>(3) 問題意識を持って授業に参加し、ノートは単に板書を写すだけでなく、自分で考えたことや感じたことや興味を持ったことをメモして工夫してみましょう。復習で役立つほか知識に広がりや生まれます。</p> | | | | |
| 4 評価の方法 | | | | |
| <p>(1) 定期考査・基礎確認テストの成績、課題を設定して追究する学習の成果等をまとめた課題レポート、課題シートなどの提出物、調査結果の発表会等での発表の内容や仕方、学習活動への参加の態度などで評価します。</p> <p>(2) 地理歴史科の観点別学習状況の評価の4観点「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」、「知識・理解」を基本として、科目の目標や単元の到達目標に照らし合わせて評価を行います。</p> | | | | |
| 5 授業計画 | | | | |
| 月 | 単元 | 具体的な学習内容 | 評価の観点 | 考査等 |
| | 「地理B」の学習について | | | |
| 4 | (1) 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境 | ◎世界の自然環境の多様性を世界的視野からとらえて概観し、それらの成り立ちを学習します。 ・世界の地形 ・世界の気候 ・世界の植生 | 【関心・意欲・態度】 ・世界の自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に対して関心と課題意識を持ち意欲的に学習に取り組んでいるか。 【思考・判断】 ・世界の自然環境などを位置や空間的な広がりに着目して地理的事象として見だし、課題を設定しているか。 ・世界の自然環境などを世界的視野から地域的な相違点、分布やまとまりなどに着目し追究しているか。 | 【資料活用の技能・表現】 ・<課題シート> 雨温図とハイサーグラフ 表計算ソフトを利用して、世界各地の気候の特色を示す雨温図とハイサーグラフを作成します。 【思考・判断】 ・<課題シート> メンタルマップ 手書きの自宅周辺のメンタルマップを、略地図作成ソフトを利用して、コンピュータ地図化します。 |
| 5 | | | | |
| 6 | イ 資源と産業 | ◎世界の資源の利用や産業の多様性を、世界的視野からとらえて概観し、それらの成り立ちを学習します。 ・世界の資源・エネルギー ・世界の農業 ・世界の工業 ・世界の流通 | 【資料活用の技能・表現】 ・学習に必要な資料を収集して、役立つ情報を適切に選択することができるか。 ・資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができるか。 【知識・理解】 ・世界の自然環境などに関して、多様性や地域性を概観し、その基本的な知識を身に付けているか。 ・世界の自然環境などに関する多様性や地域性をとらえる視点や方法を理解し、その知識を身に付けているか。 | 【知識・理解】 ・定期考査 ・小単元毎の基礎確認テスト(3回) |
| 7 | ウ 都市・村落、生活文化 | ◎世界の都市、村落、生活文化を世界的視野から多様性を概観し、それらの成り立ちを学習します。 ・世界の都市 ・村落と消費 ・余暇に関する活動 ・人々の衣食住 | | 【関心・意欲・態度】 ・<課題レポート> 「現代世界の系統地理的考察」について学んだ後に、疑問に思ったことを自分なりにまとめたレポートを提出します。 |
| 8 | | | | |
| 9 | (2) 現代世界の地誌的考察 ア 市町村規模の地域 | ◎日常の生活圏、行動圏の特色を多面的、多角的に調査して、地域性をとらえるための視点や方法を身に付けます。 ・学校周辺の地域を実際に調査して、地域の調べ方や学び方を学習します。 ・地形図の読み方や活用方法を学習します。 | 【関心・意欲・態度】 ・日常の生活圏、行動圏に対する理解を深めようとしているか。 ・変容する現代世界の諸地域に対して、関心と課題意識を持ち意欲的に学習に取り組んでいるか。 ・様々な課題に対して、必要に応じて調べたりすることができるか。 | 【資料活用の技能・表現】 ・<課題レポート> 世界の国調べ グループで、地図・統計資料・写真・文献やインターネットを利用して世界の国の調査レポートを提出します。また、調査結果の発表会を実施します。 |

| 月 | 単元 | 具体的な学習内容 | 評価の観点 | 考査等 |
|----|---|---|---|---|
| 10 | イ 国家規模の地域 | <p>◎世界の国を多面的・多角的に考察して、それらを比較することを通して地域性を理解する視点や方法を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の概要 ・日本 ・アメリカ合衆国 ・ブラジル ・インド | <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸地域の環境条件、他地域との結び付き、地域に生きる人々の営み及びそれらの相互関係を踏まえて多面的、多角的に追究しているか。 ・それらを追求した過程や結果を関連付けることを通して、それぞれの地域、国、州、大陸の地域性をとらえる視点や方法を考察することができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・<課題シート> 地形図の読図 インターネットを利用して取り出した学校周辺の地形図に、読図の基本的な作業をします。 |
| | ウ 州・大陸規模の地域 | <p>◎州や大陸規模の地域を自然環境や産業立地、生活文化などの特色から考察して、それぞれの地域的な違いをとらえる視点や方法を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・州、大陸の区分 ・ヨーロッパ ・アフリカ ・オセアニア | <p>【資料活用の技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に必要な資料を収集して、役立つ情報を適切に選択することができるか。 ・それらの資料を活用して、考察の過程や結果をまとめたき、発表したりすることができたか。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例として取り上げた地域、国、州、大陸の地域の特色を理解しているか。 ・それらを比較したり、関連付けたりして、それぞれの地域の規模に応じて、地域性をとらえる視点や方法を身に付けているか。 | <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<課題レポート> 地域巡検調査 学校周辺の地域を対象とした地域巡検調査レポートを提出します。 ・<課題シート> 大陸規模の略図 大陸規模の略図を描き、地理的な情報を書き込みます。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み明けの学力テスト ・定期考査 ・小単元毎の基礎確認テスト(3回) <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<課題レポート> 現代世界の系統地理的考察について学んだ後に、疑問に思ったことを自分なりにまとめたレポートを提出します。 |
| 12 | (3) 現代世界の諸課題の地理的考察 ア 地図化してとらえる現代世界の諸課題 | <p>◎世界の各地で起きている地球的な課題を地図化する技能を身に付けます。</p> <p>◎さまざまな地図から、諸事象の分布などに着目して、その現状や動向を考察します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の地域区分 ・地図の役割と利用法 ・様々な世界地図や日本地図の作成 | <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図を通して地球的課題の現状や動向を追究する学習に意欲的に取り組んでいるか。 ・国家間の結び付きを世界的視野から考察することの意義をとらえることができたか。 ・環境、エネルギー、人口、食料問題に対して関心と課題意識を持っているか。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家間の結び付きや地球的課題の現状や動向を地図化してとらえ、地図から適切な課題を設定しているか。 | <p>【資料活用の技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<課題シート> 主題図 主題図作成ソフトを利用して、統計資料から階級区分図と図形表現図を作成します。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み明けの学力テスト ・定期テスト ・小単元毎の基礎確認テスト(4回) |
| | イ 国家間の結び付きの現状と諸課題 | <p>◎現代世界の国家間の結び付きの特質や動向を世界的視野からとらえ、考察します。</p> <p>◎現代世界の国家群をそれぞれの地域の環境条件と関連づけて考察します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国家群や貿易 ・世界の交通、通信 | <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家間の結び付きや地球的課題を、世界的視野から地域の環境条件と関連付けて多面的、多角的に追究しているか。 ・国家間の諸問題や地球的課題の解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考察しているか。 <p>【資料活用の技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球的課題や国家間の結び付きに関する資料を収集し、それらを地図化する技能を身に付けているか。 ・収集した資料から、学習に役立つ情報を適切に選択、活用したり、考察の過程や結果をまとめたき、発表したりすることができたか。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図化してとらえる目的とその意義を理解し、それらの知識を身に付けているか。 ・地球的課題の解決のためには国際協力が必要であることを理解し、それらの知識を身に付けているか。 | <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<課題レポート> 現代世界の諸課題の地理的考察について学んだ後に、地球規模の環境問題に対しての考えや解決策などを自分なりにまとめたレポートを提出します。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<課題レポート> ODAシュミレーション グループでODA(政府開発援助)に関するシュミレーションゲームを行った後、発展途上国と先進国間の国際協力についてのレポートを提出します。 ・<自己点検シート> 1年間の自分の学習状況を振り返ります。 |
| 1 | ウ 環境・エネルギー問題の地域性 | <p>◎環境やエネルギー問題を世界的視野から地域性を踏まえて追求します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の環境問題 ・エネルギー資源と環境問題 | <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図化してとらえる目的とその意義を理解し、それらの知識を身に付けているか。 ・地球的課題の解決のためには国際協力が必要であることを理解し、それらの知識を身に付けているか。 | <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<授業評価シート> 地理Bの授業の内容、進め方、定期テストの内容や難易度などについて、アンケート形式で回答します。 |
| | エ 民族・領土問題の地域性 | <p>◎民族・領土問題を世界的視野から地域性を踏まえて追求します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人種、民族と国家の関係 ・世界の国境、領土問題 ・日本の領土問題 | | |